

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



北海道登別市
が応援するふるさと名物

市民が世界に誇る温泉を生かした登別観光

- ◎ 登別温泉
- ◎ カルルス温泉
- ◎ 鬼像





地域の プロフィール

北海道登別市



【歴史】

登別観光の中心である登別温泉は、1858年、後に湯治の祖と呼ばれる滝本金蔵が湯守となって旅人や鉱夫の湯治を目的に温泉宿を建て、新しい道路を整備するなど、現在の礎を築いたのが始まりといわれています。

1905年、日露戦争傷病兵の保養地に指定されてから『名湯』として名が広まると、全国から湯治客が集まるようになり、登別温泉には旅館や土産物店が次々と建ち並ぶなど、温泉街の基盤ができあがっていきました。

【現在】

登別市には、国内はもとより、アジア各国をはじめ世界各地からの観光客も増えており、平成27年度の観光客の入り込み数は391万人、宿泊客数は128万4,000人（うちインバウンド数47万500人）と、国際色豊かな観光地としてにぎわいを見せています。

登別といえば、やはり温泉。登別温泉・カルルス温泉は日本を代表する温泉郷です。登別温泉の最大の泉源地である地獄谷では、爆裂火口跡から白煙が立ち上り、その荒々しい姿は、まさに『地獄』を連想させます。観光の玄関口であるJR登別駅前や道央自動車道登別東IC前、登別温泉街などでは、『地獄』からイメージされる『鬼』の像をはじめ、閻魔大王からくり山車や登別市PRキャラクター『登夢くん』が観光客を出迎えます。

また、毎年開催されている『登別地獄まつり』や『登別温泉湯まつり』では、温泉や鬼、閻魔大王がまつりのテーマ・シンボルとして登場。湯のまちならではの熱気あふれるイベントを盛り上げ、たくさんの市民や観光客が登別観光の魅力を体感します。

市民が世界に誇る温泉を生かした登別観光

登別には、自然湧出量1日1万トンと言われる豊富な湯量と、9種類もの泉質があることから「温泉のデパート」と呼ばれる『登別温泉』と北海道で最初の国民保養温泉地に指定された日本屈指の名湯『カルルス温泉』の2つの温泉郷があり、この温泉を目的として、国内外から多くの観光客に来訪いただいております。

登別温泉最大の泉源地である「地獄谷」は、泡を立てて温泉が煮えたぎる風景が「鬼の棲む地獄」の由来となっており、登別温泉では、ここからイメージされる「鬼」や「閻魔大王」などを活かしたイベントの開催や像の設置、お土産の開発・販売が行われ、また、支笏洞爺国立公園などの自然を生かしたアクティビティを実施し、登別での観光をより楽しんでいただけるよう全市一体となって取り組んで参りました。

近年、旅行形態は団体旅行から個人旅行へ、周遊型から滞在型に変化しており、また、OTA（Online Travel Agent）やLCC（Low Cost Carrier）の普及、さらには、外国人旅行者の増加など、観光業界を取り巻く状況や旅行者のニーズが多様化しており、それに沿った観光地づくりが求められておりますので、今後も登別が多くの方に選んでいただける観光地であり続けるために、全市が一体となって地域資源を活用した観光地づくりを進めてまいります。



登別市PRキャラクター
登夢(とむ)くん

ふるさと名物の内容～主な地域資源～

1

主な地域資源

- ・ 登別温泉
- ・ カルルス温泉

◆ 登別温泉

JR登別駅から北へ約8キロメートルに位置する登別温泉街では、最大の泉源地である地獄谷から白煙が立ち上り、熱湯が湧き出しています。登別温泉の大きな特徴は、9種類もの温泉が湧き出していること。これは世界的にも珍しく、登別温泉は『温泉のデパート』とも呼ばれています。地獄谷をはじめとする泉源からは、1日1万トンの温泉が湧き出し、登別温泉街のホテルや旅館に供給されています。登別温泉は、古くは湯治場として病気、怪我の療養に利用され、近年では健康な人が心身のリフレッシュや積極的な健康づくりに温泉を利用するなど、温泉の効能が見直されています。

◆ カルルス温泉

登別温泉から北西へ約8キロメートルのところに位置するカルルス温泉は、1886年、日野愛憲が登別川上流の調査をしていた際に発見しました。1899年、道路や旅館が整備され、当時、世界的に有名な温泉保養地として知られていた、チェコ共和国のカルルスバード（現：カルロビ・バリ）に泉質が似ていたことから、『カルルス』と命名されました。泉質は、無味・無臭・無色透明の芒硝性単純泉。1957年には、北海道で最初の国民保養温泉地に指定されました。



カルルス温泉



のぼりべつ温泉地獄谷



昔の登別温泉

ふるさと名物の内容

◆体験型観光

(一社) 登別観光協会や(一財) 自然公園財団登別支部、市内の旅行会社が、地獄谷や大湯沼、大湯沼川天然足湯、天然記念物に指定されている登別原始林といった支笏洞爺国立公園の豊かな自然を体感する散策ウォーキングなど、観光客に温泉をはじめ、登別のシンボルである『鬼』の由来となった地獄谷などに触れる機会を提供しています。

また、カルルス温泉にはスキー場が隣接しているほか、登別温泉・カルルス温泉から至近の札内高原では、四輪バギー、スノーモービル、乗馬、ゴルフなどを四季を通して楽しむことができます。

◆地域で連携する広域観光

市内では『のぼりべつクマ牧場』、『登別マリンパークニクス』、『登別伊達時代村』の三大テーマパークが温泉を訪れた観光客の人気を集めているほか、2020年に国立アイヌ民族博物館が開設予定の白老町や、洞爺湖有珠山ジオパークを有する洞爺湖町をはじめとした近隣地域との連携を図っており、市は温泉を軸とした広域観光地域づくりの中心的役割を担っています。



2

主な地域資源 ・鬼像

◆『鬼』のイベント

登別温泉街では、『温泉』のほか、『地獄』からイメージされる『閻魔大王』や『鬼』をシンボルに、毎年、『登別地獄まつり』や『登別温泉湯まつり』など、湯のまちならではの熱気あふれるイベントを開催しています。

また、地獄谷を舞台に、2006年から『鬼火が誘う地獄の谷』を開催し、観光のさらなる魅力向上に取り組んでいます。夜間、地獄谷遊歩道を『鬼火の路』としてフットライトで照らし、観光客を荒々しい大地の鼓動が感じられる爆裂火口跡・地獄谷に誘います。

さらに、6月から8月上旬まで、地獄谷展望台では、地獄谷に棲む登別温泉の湯の守り神『湯鬼神』が、人々の幸せと無病息災を願い、手筒花火を打ち上げる『地獄の谷の鬼花火』を開催しています。

◆登別版ご当地グルメ『登別閻魔やきそば』

2015年4月、食の専門家のアドバイスを受けながら、市内の飲食店の有志が中心となって研究や試作を重ねて開発した市民待望のご当地グルメ『登別閻魔やきそば』が誕生しました。開発には、市や登別商工会議所が協力して支援し、温泉や観光の知名度を生かした地域のブランド化を推進しています。

『登別閻魔やきそば』は、閻魔大王からの3つの掟『①道産小麦の平麺を使うこと』、『②閻魔大王指定の秘密のタレを使うこと』、『③登別産または登別近郊の食材を使うこと』を守る市内の飲食店32店（2016年10月現在）で提供され、鬼や地獄から連想される辛さを特徴に、四季折々の地元産食材が彩りを添えます。



地獄の谷の鬼花火

ふるさと名物の内容

◆温泉や観光を盛り上げる豊富な一次産品や高品質な加工食品

市内では、道内トップクラスの乳質を誇る生乳を使った『のぼりべつ牛乳』やプリン、チーズをはじめ、オロフレ山溪の湧水で栽培する『ワサビ』、登別漁港・鷺別漁港で水揚げされる新鮮な魚介類を原料とした『たらこ』など、豊かな自然から生み出される一次産品やそれを活用した多彩な加工食品が生産・販売され、食において温泉や観光を支えています。

中でも、登別温泉・カルルス温泉のイメージを裏切らない高品質な地元産加工食品を認定し、広く宣伝することで、商品の信頼や知名度を高めるとともに、地域経済の活性化やまちのイメージを向上させることを目的に、2009年度から『登別ブランド推奨品』の認定に取り組んでいます。2016年度までに、『のぼりべつ牛乳』、『ワサビ』、『たらこ』を含む市内13事業者の28商品が推奨品に認定され、市内外で開かれるイベントなどで、『鬼のイチオシ』として、シンボルマークとともに積極的なPRを展開しています。



ふるさと名物の内容

◆地域資源を生かした工業製品

市内の企業では、地域資源である温泉を活用した化粧品やせっけんなどの製品づくりに積極的に取り組んでいます。

温泉成分やカニの甲羅に含まれるキトサン、植物エキスなどを配合した化粧品やフェイスマスク、せっけん、湯の華などが生産・販売され、天然由来の成分が肌にやさしいと、女性を中心に市民や観光客から好評を得ています。

また、登別温泉街の土産物店などでは、柔和な表情を見せる鬼の置物も販売するなど、温泉や鬼などを活用した特色あるさまざまな製品が、登別観光の盛り上げや観光客の思い出づくりにも一役買っています。



登別市の取り組み

1

登別ブランド 推進協議会

2009年、市内の行政、商業、観光業、教育機関、食やまちづくりに関わる市民活動団体などが参加する『登別ブランド推進協議会』が発足しました。

市民や流通・食に関する有識者、報道機関、生産者組織などによる『登別ブランド推奨審査会』を設け、生産者から製品に込めた登別への思いを聞くほか、試食を通して、『登別ブランド推奨品』に認定します。

登別市は、『登別ブランド推進協議会』の構成団体として、さらに事務局機能を担いながら、各構成団体と協力し、『登別ブランド推奨品』のPRや登別温泉のイメージを生かした新たな地元産品の掘り起こしに取り組んでいます。

また、登別観光の知名度を生かした地域の「食」のブランド化を推進するため、市や登別商工会議所が協力して支援を行い、市内の飲食店の有志が中心となり、食の専門家のアドバイスを受けながら研究や試作が重ねられ、2015年4月に市民待望のご当地グルメ『登別閻魔やきそば』が誕生しました。



2

まちの 経済活性化

◆創業者支援

観光客が登別ならではの個性ある商店街のまち歩きを楽しむことは、温泉や観光の満足度を高める重要な要素であり、空き店舗を活用した新たな開業を促し、商店街の活性化を目指すため、市は、空き店舗の賃借料の一部を補助する『空き店舗活用事業補助金』や、市内で新たに事業活動を開始するため、起業や新分野への進出を行う方に事業所の開設に係る経費の一部を補助する『事業所開設費補助金』の制度を設け、まちの経済活性化に向けて取り組んでいます。



◆既存事業者支援

市は、市内の既存事業者を対象に、店舗への集客力の向上やサービスの向上を目的に、店舗の改修などを実施する経費の一部を補助する『店舗リフォーム補助金』の制度を設けています。

また、自社で開発または製造した製品、技術及びサービスの販路拡大を図るために商談会、展示会、見本市等に出展する市内事業者とその経費の一部を補助する『商談会等出展補助金』の制度を設け、温泉や鬼、観光の登別をイメージする製品の販路拡大を支援しています。

さらに、公益財団法人室蘭テクノセンターが行う『ものづくり創出支援事業』に対して、市内中小企業が活用した事業に係る経費を負担することにより、市内の中小企業等における新製品や新技術の創出、市場開拓に向けた活動の支援に取り組んでいます。



登別市の取り組み

3

温泉廃熱・廃湯 の有効活用

泉源から1日1万トンもの熱湯がわき出る登別温泉。

使われなかった湯やその熱を利用し、市民や観光客が冬季も安心してまち歩きを楽しむことができるよう、市内企業が開発した空気吹き出し式融雪システムを登別温泉街のロードヒーティングに用いているほか、廃熱により温室内でアスパラを栽培し、将来的に登別温泉・カルルス温泉のホテルや旅館での提供を目指して、市内の事業者や行政などが手を取り合いながら、地域資源を生かした新製品・特産品の開発にも積極的に取り組んでいます。



温泉熱を利用した
空気吹き出し式融雪システム



温泉廃熱を利用したハウス栽培



登別市長 小笠原 春一

私は、幼い頃から、このまちの豊かな自然に、そして、温泉のように温かい地域の皆さんの愛情を受けながら育った登別人の一人です。

登別といえば、やはり温泉。わが国を代表する温泉郷である登別温泉とカルルス温泉は、私たち市民の宝です。

登別市では、温泉や鬼など、地域の資源を観光や産業、まちづくりに生かすため、市民や企業、行政がともに汗を流しながら、個性豊かで魅力あるまちづくりを目指しています。

『温泉と観光のまち登別』をさらに盛り上げるため、温泉や鬼、そこから生み出される数々の商品の販路拡大や新商品開発、イベントの展開などに取り組み、市民や企業と連携しながら、全国にPRしてまいります。